



## 「支え手」養成講座を開催

チャイルドラインでは、子どもからの電話を受ける人を「受け手」と呼んでいます。その「受け手」をサポートする「支え手」の人がいます。「支え手」は、電話が終わった受け手と一緒に振り返りを行うなど、受け手に寄り添い、気持ちのケアをする役割があります。

9月25日に本浄謹土理事（JA高知病院小児科医師）を講師として「支え手養成講座」をオンラインで開催し、新たな「支え手」が3人誕生しました。「支え手」は12人となりましたので、子どもの声を聴く体制をより充実させていきたいと思えます。

当会の優れた構造である、「受け手」を支える「支え手」として、その役割を共有する目的で、「支え手」養成講座を開催しております。電話に対応いただく「受け手」の皆様、種々の疑問・不愉快な内容・対応後の迷いなどを、その場でお話いただき、よい感情もいやな感情も共有させていただき、できるだけいやな感情を持ち帰らないよう、「支え手」として機能できれば幸いです。「受け手」の方々と一緒に歩んでいく関係づくりを大事にし、「支え手」同士も切磋琢磨していけるような講座を続けていく所存ですので、皆さまご協力をお願いいたします。  
(講師の本浄謹土理事より)



## 「受け手」継続研修を開催

2020年11月21日（土）、オンラインで「受け手」継続研修を行いました。参加者は進行役を含め11人でした。

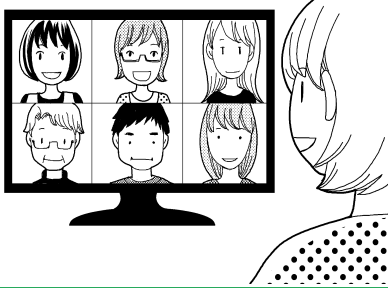
「電話を受ける時は顎を上げて発声する」ことや、相づちのバリエーションを復習し、コロナ禍での子どもたちの様子などの情報を共有しました。

そして、頻回と思われる電話について「同じ内容でもできる限り聞いてあげたい」という意見がありました。対応に困った事例として「性的話にどう対処したらいいかわからない」という声があり「何が一番困っているの？本当に困っていることは何？などと聞くと良い」「淡々とした調子で受け答えをする」「無理をしない程度に聴けるところまで聴きたい」など様々な意見が寄せられました。

また、チャイルドラインという場所について「電話をかけた時、信じていい大人がいるんだよ、と思える場があるのが嬉しい」「この活動に携わることで、自分の救済ができる場所である」「目の前の子どもたちだけでなく、スタッフの助けにもなっている」という声が聞けました。

最後に、子どもの心に寄り添うということは「子どもの言う事を否定せずに（良いとか悪いとかのジャッジはせず、大人のルールに当てはめずに、こうした方がいいよ～は横に置いて）聴くこと」であることを再確認しました。

オンラインではありましたが、忌憚なく意見を交わし合い、スキルアップのための有意義な時間となったと思えます。



## 高知新聞社との協力企画が始動

高知新聞社「読もっかNIE編集部」では、毎週金曜日に、小学生向けに「こども高知新聞 読もっか」（タブロイド判）を高知新聞本体と一緒に配布するとともに、県内のほぼ全中学生（約16,000人）に「Peratto」（A4サイズ両面）を学校を通じて無料配布しています。

この度、「読もっかNIE編集部」との協力企画として、中学生向け「Peratto」紙面を活用して、チャイルドラインのことは知ってもらい取り組みが始まりました。12月4日発行号では、チャイルドライン紹介記事と「中学生のホンネ」を掲載。

「中学生のホンネ」に関しては、来月以降、毎月第一金曜日発行号に掲載される予定になっています。この協力企画は、子どもたちの悩みやホンネに関する記事等を扱ってほしいという中学生の声や学校関係者の要望に、どのように応えようか検討していた「読もっかNIE編集部」にとって、チャイルドラインを紹介することで、応えられるのではということ動き出しました。

**「読もっか」の読 年ごとの内訳**

年	発行部数	発行日
2010	1,843	7/7 19.6
2011	2,050	11.14 20.0
2012	2,022	11.14 20.0
2013	2,022	11.14 20.0
2014	2,022	11.14 20.0
2015	2,022	11.14 20.0
2016	2,022	11.14 20.0
2017	2,022	11.14 20.0
2018	2,022	11.14 20.0
2019	1,766	7/6 20.1

**子どもたちの声聴き10年**  
無料電話で約2万件

**中学生のホンネ**  
「読もっか」の読者層は、中高生が中心で、中学生の悩みやホンネに関する記事等を扱ってほしいという中学生の声や学校関係者の要望に、どのように応えようか検討していた「読もっかNIE編集部」にとって、チャイルドラインを紹介することで、応えられるのではということ動き出しました。

## ご寄付のお礼 (2020年8月～12月)

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

### <企業・団体の皆様>

- 中島工務店 様 30,000 円
- 谷岡内科小児科 様 10,000 円
- 田村子どもクリニック 様 10,000 円
- 筒井紙業印刷(株) 様 5,000 円
- 食家「雅」 様 6,000 円 (寄付つきメニューより/7～12月分)

### <個人の皆様>

- 前田賢人 様 澤田敬 様 吉川清志 様 山本紀子 様 長尾佳樹 様
- 今村潤 様 ほか匿名2人

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様の寄付等により成り立っています。今後ともよろしくお願いいたします。

◆会員数(2021年1月1日現在)  
活動会員 58人  
支援会員 36人・団体